

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771300419		
法人名	医療法人社団 光風会		
事業所名	高齢者グループホーム プレスマン		
所在地	香川県高松市牟礼町原932-1		
自己評価作成日	令和6年10月4日	評価結果市町受理日	令和7年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	令和6年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大もあり、数年間外出や面会の機会が減少していた為、令和5年度は外部に向けた取り組みを充実させるよう活動した。それにより入居者様やご家族、地域住民との交流が復活し、入居者様の生活に活気が戻った。

海に見える高台に法人の医療機関があり、周辺に医療系や介護系の事業所が点在し、その一角にグループホームが位置している。法人では健康経営理念を掲げ、積極的に職員の心身の健康や職場環境づくりも行われている。事業所では心身共に健康で経験豊富な職員により「その人らしさ」を尊重した介護サービスが提供されており、また利用者も同一法人の健康診断が定期的に受けられるなどの環境もあり、家族等の安心・信頼にも繋がっている。利用者は地域住民と位置づけ、地域社会で日常的な交流を続けられるよう職員は意識して支援、行動されている。運営推進会議では広域の自治会からの参加もあり、情報提供や研修・相談を出来るように工夫されることで、地域の拠点的な活動にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

己 自 部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が自分らしく生活できるよう理念を作成している。入居者は地域で暮らす住民である事を念頭に置き、実践に繋げられるよう申し送りで唱和している	理念は職員が目につく場所に掲示して、毎朝の引継時に唱和されている。利用者は地域で暮らす住民であり、職員が率先して地域との共生を目指し環境整備など出来ることに取組まれている		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	入居者と地域がつながりを持つため、まずは職員が地域とつながるよう心掛けています。施設周囲のゴミ拾いを行い、地域住民と交流を図っている	事業所は職員から率先して身近にできることから地域活動を実践されている。地域住民はボランティア活動やイベントでの交流を通じて法人や事業所と関りを深められている		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に3回、地域住民に向け「ブレスマンだより」を郵送している。その中で認知症の予防や対応等について説明し、地域へ発信している			
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には地域包括ケアセンター職員や地域住民を招き、施設活動について説明を行っている。ご意見を伺いサービス提供の参考としている	運営推進会議は2カ月に1回定期的に開催され、地元の自治会等参加者は多い。事業所は医療や介護の知識や情報を発信することで住民の知識収集や困りごと解決の一助となれるよう取組まれている。参加者との意見交換では、地元の抱える問題が明示されるなど有意義な会議が行われている		
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍であった為、衛生材料や検査に関する情報提供を頂き活用した	運営推進会議には包括支援センター職員や系列の認知症医療センター職員が参加して住民の実情を聴取している。事業所は現状や取り組み等を伝え、協力関係を築くよう連携に努めてられている		
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束実施までの流れを1回/年、職員に説明し、独断で拘束を行えない事を周知している。また、様々な拘束例を挙げ、日常ケアから注意している	身体拘束については法人全体で研修会を持ち、職員は定期的に研修を受けている。年に一度は基本に立ち返り周知がなされている。また、様々な例から日常ケアへの注意喚起がなされている		
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年4月と6月を虐待防止月間として、法人内で決められており、年2回「自己点検チェックシート」を活用し、振りかえっている。法人、介護施設、自施設でそれぞれ虐待について研修会や会議を行い学びを深めている			

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者個々の家族背景を踏まえ、関係者と話し合い制度を活用するようにしている。制度活用の際、職員に対しても流れを周知し制度について理解が深められるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、担当者ごとに時間をかけた説明を行うよう心掛けています。その都度疑問点について話し合い、入居者、家族の意向を把握するよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名で意見を述べられるよう「ご意見ポスト」を設置している。その他、入居者や家族に対しては電話や対面時に困り事を伺うようにしている	ご意見ポストは月1回開示されている。家族には何かあると即時連絡を入れ、信頼関係の構築に努められている。面会時や電話時に意見や困りごとを伺って、運営に反映させられている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員の意見はフロアリーダーが聴取し、管理者と代表者へ報告している。・毎朝の申し送り、毎月開催しているカンファレンス、各会議の時間を利用し意見や提言を言えるような場を作っている。・会議やミーティングには管理者が出席し、職員の要望や意見を聞く機会を可能な限り設け運営に反映できるように努めている。・管理者、代表者は定期的及び必要時には職員の個別面談を実地している	毎朝の引継時や研修、会議の機会に時間を取り管理者は意見や提案を聴取している。職員の意見や提案をフロアリーダーは適宜管理者や代表者に伝えている。職場は職員が働きやすいように配慮されており、希望勤務への配慮や、就業時間での研修実施、法人全体での健康管理などに繋がっている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・設立母体が医療機関(精神科病院)であり、職員の健康診断、予防接種、メンタルヘルスなど健康を維持できるような対応を実施している。・職員全員に対し毎月勤務希望を聴取する事で、希望日に休暇を取得できリフレッシュできる体制、配慮を行っている。職員一人ひとりの力や勤務状況に配慮し、能力、適正に応じ役割を持ってもらう事で向上心アップに繋がっている。法人全体で「目標チャレンジエントリー」制度を設け、自己研磨に努められるよう支援している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人全体研修(1/月)、介護保険事業部研修(1/月)、施設内研修(1/月)を計画的に実施している。・オンライン研修に施設内で積極的に受講し、以前より研修に参加しやすい。・参加してみたい研修があれば積極的に参加して頂き、育成に努めている。・職員の勤続年数、介護技術、知識等の能力を把握し個々に必要な外部研修に参加してもらいスキルアップを図っている。・フロアリーダーが中心となり、介護技術の指導を行いエビデンスに基づいたケアが実施できるよう指導、助言を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との情報交換や交流を持つ事で、意欲向上を図っている。・香川県グループホーム、小規模多機能連絡協議会にて他事業所と意見交換を行い、他施設での取り組みや改善した事を参考にさせて頂き、自施設でのサービス向上を図っている。・香川県グループホーム協議会役員として他事業所から助言を頂きながら連携に努めサービスの質向上目標としている		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、本人の要望や希望、困っている事などを話し合い、感染対策に注意し、状況に応じて本人が安心して頂けるように関係作りに努めている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と話し合いを持ち、要望や不安、困っている事を理解し寄り添うようにしている。また、入居に至るまでの生活状況やサービス利用などを聞き、ご家族様との信頼関係に努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様が必要としている支援を見極めできる限り柔軟な対応を行う。必要に応じて他の事業所とのサービスの連携がとれるように対応している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で一緒に家事を行ったり、苗植えや収穫なども行い、ご本人様の負担にならないように配慮して、楽しみや達成感を共に分かち合える関係を築けるように努めている	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を行いながら、サービス担当者ご本人様やご家族様と希望について必要に応じて会議を行っている。また、来設時は、ご本人様の様子を伝えたり、感染に注意した上で、ご面会などでご本人様とご家族様との絆を大切にしている。体調の変化がある場合は、その都度早急にご家族様に報告して、ご本人様を支えていけるように協力関係を築いている	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、ご家族様に送付している請求書に職員からの手紙とご本人様の写真を同封し、情報提供している。また、感染対策に充分に注意しながら、地域のボランティア様とイベント交流を実施している。ご本人様とご面会は、時間や状況に配慮し、関係が途切えないよう支援に努めている	家族には毎月、手紙や写真を送り、利用者の状況が伝えられている。地域に情報誌を郵送して、認知症の予防や対応、イベント情報などが発信されている。感染症対策に留意しながら、地域交流や面会、外出支援など再開されている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が洗濯たたみやお盆拭き等できる事を助け合ったり、事務所内感染予防につとめながら、食事やユニット交流会、三光病院高齢者向けデイケアプログラムへの参加、レクリエーション等を通して一緒に過ごせる関わり合いがもてるよう支援に努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族に対して関係を断ち切らないで相談等があれば支援し、フォローが継続できるよう努めている	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり日々の関わりの中で、生育歴・生活歴等から希望や意向の把握に努めている。家族や関係者からも話を聞いている。意思疎通の困難な方、聴覚障害の方などには筆談や表情態度などで情報を得てカンファレンスにて本人の思い、意向の把握に努めている	事業所では自分らしく生活できるよう、その人の思いや意向の把握に努められている。日々の関わりや会話で希望や意向をさり気なく尋ね、意思疎通困難な方には関係者からも情報が集められている。適宜カンファレンス等で、職員間で話し合い思いの把握と実践に努められている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中から、これまでの生活や暮らしの様子を聞いたり、家族様からの情報収集を行いながらサービス利用の経過の把握に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活のリズムを把握し、できる力を見つけ現状維持できるよう努めている	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・入居者様の意見要望を聞き、日常生活をもとにスタッフ間でカンファレンスを行い、介護計画を作り、家族に説明し理解を得ている	本人や家族から意見や要望を聞き取り、職員間でカンファレンスを実施し介護計画が策定されている。必要に応じて医師や歯科医師、歯科衛生士や栄養士等の専門家の意見も取入れられている。本人家族等にも説明、同意を得られている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分・入浴・排泄などを個別にチェック表に記入している。その他日々の活動や状況も含め申し送りで伝達し、情報を共有している	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況に応じて受診や入院、医療行為を請けながら生活を維持している。送迎にて三光病院高齢者向けデイケアプログラムに参加して頂き、生活の活性化を図っている。2名の看護師を配置し、併設の病院や事務所と情報共有し連携体制も整っている。ご本人・ご家族様の意向により看取りも行っている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染状況をみながら、ボランティアの方々と交流を図っている。運営推進会議も再開され、民生委員・自治会・地域包支援センター職員、入居者家族、地域住民の方々に出席頂き、意見交換をしたり、地域交流図れている	

30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は基本家族の方に行ってもらっている。身体状況・現状を家族に報告し、受診がスムーズに行える様配慮している。併設医療機関受診は施設看護師が同行し、病院関係者に近況報告をし適切な医療を受けられている	併設の病院に担当内科医がいて、月1回は検診を行い、健康の維持が図られている。かかりつけ医の受診は家族が付添われるが、情報提供等の連携にてサポートが行われている。歯科医や歯科衛生士による往診にも対応がなされている。事業所には看護師2名が配置されており、受診や緊急時に適宜対応できる体制が構築されている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者様との関わりの中でとらえた気づきや体調について看護師に伝え、適切な受診に繋がっている。看護職員を2名配置しており、日勤帯は看護が在籍するようにしている。看護師不在時では併設の看護職員の協力を得ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時は、情報提供書を医療機関に提出している。また、入退院時は御家族様、入居者様に寄り添う様に努めている。スムーズに入院・早期に退院ができる様に日常的に併設の病院関係者、地域連携室と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時、コロナ感染状況をみながら、どこまで対応できるかケアの説明を行い、方針を共有するようにしている。状況の変化があれば、家族・医師・看護師と話し合い治療方針を決め、それに添って行っている	入居時には利用者や家族に重度化や看取りについて事業所の方針を説明し、意向を確認がなされている。状態の変化に伴い、その都度主治医や看護師等も交えた話し合いが行われ、統一した支援が実施されており、本人や家族に意向があれば事業所での看取りも可能な体制が構築されている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やカンファレンスを行い、急変時の対応について研修に参加して技術を身につけている。マニュアルを作成し、職員全員に周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回入居者職員と一緒に、日勤帯・夜勤帯を想定して訓練を行っている。災害マニュアルを作成し、防災の会を開催している。併設の病院や事務所・地域とも連携を取り、協力体制を確保している	年4回の防災訓練は、法人全体で2回、併設施設と2回行われている。職員が防災の会を作り、マニュアル作成や見直し、避難計画や職員緊急連絡網の整備、地域との連携などが実施されており、地域の防災訓練にも職員が参加するなど協力体制も構築されている	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自分らしさを尊重し、その人に合った声掛けをしたり対応に心掛けている。個人情報やプライバシーには、十分に気を付けている	理念として「その人らしさ」を掲げられており、一人ひとりを尊重して、個別の対応が出来るよう、職員間でカンファレンス等で日頃から話し合われている。プライバシー保護には研修や接遇マナー研修を行い、職員の資質の向上が図られている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナ感染状況を見ながら買い物を行い、出られない時は希望の物を職員が購入している。外出や買い物の訴えがある時は早めに対応している。外気浴・体操・入浴などの日常生活支援の際は、本人の希望を聞き取っている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を聞き取り、一人ひとりのペースに合わせて一日の流れの中で体調を見ながら支援している	
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	入居者様の好みの洋服や必要な物を聞き、買い物支援をしている。また、月1回訪問理容の方が来られ散髪をしている。コロナ感染対策により、県のフェーズが高い時期は行えていない日常のモーニングケアや髭剃り、入浴後に化粧水を使用する等、個々に合わせた支援を行っている	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望メニューを聞き、希望を取り入れた手作り夕食作りやおやつを提供している。コロナ感染対策を行った上で食事を切り分ける等、職員と一緒にやっている。食後にはテーブル拭き・お盆拭き等片付けと一緒にやっている	食事は業者により搬入された調理食品を加熱等して、提供されている。利用者や職員と一緒に準備や後片づけを行っている。月1回は利用者の希望の献立により、みんなで一緒に手作りし、喜ばれている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下状態に応じて食事形態を変えている。栄養バランスを考え盛り付け等工夫し、摂取量が増えるよう努めている。一人ひとりの食事量と水分量をチェックし、水分量の少ない方には好みのジュースやお茶を提供したり、ご家族様にお願いして好みの物を差し入れて頂いている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い実施している。歯磨きが上手に出来ない方には磨き残し等の確認をし、先口液等を活用して口腔内の清潔に努めている。義歯は夜間洗浄剤につけて消毒し清潔を保っている	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け・トイレ誘導等を行っている。トイレで排泄を行う事で失敗やオムツの使用を減少できるよう支援を行っている。スタッフ同士でその人に合わせた支援を話し合い行っている	排泄チェック表に基づき、排泄パターンを把握されている。適時の声かけ、誘導、介助により、トイレでの排泄が支援されている。トイレ使用によりおむつや尿取りの使用を減らし、利用者と相談しながら自立の方向へ導かれている。夜間は利用者と職員が相談しておむつや尿取り、ポータブルトイレを利用する事もある	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分だけでなく、食物繊維の多い食品や乳製品オリゴ糖や乳酸菌製品を摂ってもらうよう声換えを行い、できるだけ薬に頼らず排泄出来るよう支援している。午前午後には体操を行い、体を動かす様支援している。必要に応じて緩下剤を使用し便秘の改善に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間2～3回入浴して頂いている。声掛けにて入浴の有無・時間・温度等、希望を聞きとりを行っている。シャワー浴やリフトを使用して安全に入浴してもらえるよう支援している。一人で入浴できる方は本人の要望を聞き、支援が必要な時には介助を行っている	入浴時間は午前と午後あり、一人週2回から3回は入浴されている。個浴のほかにシャワー浴とリフト浴があり、体調に合わせて利用されている。季節により菖蒲湯やゆず湯を提供している。個別には「清潔活動」を通じて、清潔目的に爪切りや手指浴、足浴等が行われている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には外気浴を行っている。花の水やりと一緒に、癒やしを得られるよう支援している。朝の水分補給前にはラジオ体操、おやつ前にはリハビリ体操・足踏み体操等を行い、デイケアに通い1つのプログラムを受けて、日中に体を動かす事で良眠できるように促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の定期薬一覧表に目的・用法・効能等が書かれており、職員が理解できるようにしている。変更時には伝達ファイルに理由を記入し、一覧表にも追加変更している。入居者の状態について職員同士で変化はないか、良い状態を保っているか等話し合っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状況をみて話し合い、その人に合った役割を持てるようにしている。生活の中で出来る事があれば手伝いの声掛けをしている。歌や生け花、体操だけでなく、野菜の水やり・収穫等、外に出て行う事も本人の生活歴に合わせてできる事を楽しんで頂いている。何かしたい事があるか聞き取り、取り入れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の状況を見ながら、感染対策に気を付けて行っている。他病院受診やスーパー等への買い物、併設病院の売店への買い物、服屋への買い物など、希望に合わせて行っている。その他の買い物は代行したり、家族へ依頼している。家族との外出も行っている	感染症予防に配慮され、外出は法人内の受診・デイケア等と行き先が限られている現状がみられる。また、原則外出は家族が介助出来る利用者に限られた実施となっている	人員等限られた条件の中で感染予防にも配慮した日常的な外出の継続は、困難も多いと予想されますが、利用者本人の会話の一端や行動からも感じられる「行きたい場所ややりたい事」への支援が、家族やボランティアの協力も得ながら実施できる仕組みを工夫するなどにより実施できることで、更に利用者の生活や事業所に活気や潤いが増すことに期待します

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いを預かっている。事務所で管理し、必要時に出金している。ご自身で持たれている方には、月々の生活費がどのくらいかかっているか話し合い、不安な事がないか聞き取っている。コロナ状況が緩和されている時には、一緒に外出し買い物をしている。希望するものを買って物代行したり、併設する病院の売店へ一緒に行き、買い物をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が希望された時、家族や友人に電話を取り次ぎ、また、つながりやすい時間を調整している。感情的に話される方に対しては、ご家族に事前に日常生活等の状況を伝え、電話対応についてお話し合い、共有できるようにしている。手紙のやりとりが途切れぬよう年賀状と一緒に書いている。また、ポストに入れる等支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にプランターを設置し、季節のお花や野菜をプランティア・地域の方と一緒に苗植えを行い、収穫し提供している。金魚やめだかの飼育を行い、成長を見守る等、外気浴時の楽しみ作りを行っている。ホールには皆で生けた花や地域の方より頂いた花を飾り、室内には四季の移り変わりを感じられるよう工夫している。入居者の方と一緒に作った作品や日常行事等の写真も掲示している。生活環境に配慮し、清掃を行い、温度・湿度・空調や臭いに気を付け感染予防にも努めている	玄関先やホール、廊下は明るく、広くゆとりがある。天井を高くした食堂兼居間は9畳の小上がりが続き、ゆったりした雰囲気となっている。壁面はカレンダーや写真、利用者の作品などを掲示している。利用者は食堂や居室に居て、それぞれが望む過ごし方をしている。職員は住みやすい環境に配慮して、温度設定、換気、明るさ、清潔感等に気配りが行き届いている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを見たり、好みのDVD鑑賞・歌番組の録画鑑賞、本や新聞を読まれたり、談笑せきよう座席スペースを作り、くつろげるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族写真や好みの花やメッセージを飾り、自室で使用していた馴染みの家具や電化製品を持ち込み設置している。本人が活動しやすいよう家具の配置を行い、生活スタイルに合わせ床へのジョイントマット等を設置し、和室式に使用できるよう工夫している	個室の入り口の記名は本人や家族の意向を確認して表示されている。ベッドや家具類は備え付けられており、それぞれ使い慣れた電気製品や思い思いにお気に入りの私物を持ち込み、過ごされている。広い室内は活動しやすく整理されておりまた、本人の意向により施錠もできるよう支援がなされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態の変化を理解し、歩行器や車椅子・介護シューズを使用し、活動の維持に取り組んでいる。ホールには食事のメニューや今日のお知らせ活動等をホワイトボードに記載し掲示している。本人の自尊心を傷つけないよう支援し、居室内の移動や空間等の環境を整え、安心安全に過ごせるように支援している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めて いることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面があ る (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪 ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者 とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者 や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情 や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己 外部	項 目		自己評価
			実践状況
I.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が自分らしく生活できるよう理念を作成している。入居者は地域で暮らす住民である事を念頭に置き、実践に繋がられるよう申し送りで唱和している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と地域がつながりを持つため、まずは職員が地域とつながるよう心掛けています。施設周囲のゴミ拾いを行い、地域住民と交流を図っている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に3回、地域住民に向け「プレスマンだより」を郵送している。その中で認知症の予防や対応等について説明し、地域へ発信している
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には地域包括ケアセンター職員や地域住民を招き、施設活動について説明を行っている。ご意見を伺いサービス提供の参考としている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍であった為、衛生材料や検査に関する情報提供を頂き活用した
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束実施までの流れを1回/年、職員に説明し、独断で拘束を行えない事を周知している。また、様々な拘束例を挙げ、日常ケアから注意している
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年4月と6月を虐待防止月間として、法人内で決められており、年2回「自己点検チェックシート」を活用し、振りかえっている。法人、介護施設、自施設でそれぞれ虐待について研修会や会議を行い学びを深めている

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者個々の家族背景を踏まえ、関係者と話し合い制度を活用するようにしている。制度活用の際、職員に対しても流れを周知し制度について理解が深められるよう努めている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、担当者ごとに時間をかけた説明を行うよう心掛けている。その都度疑問点について話し合い、入居者、家族の意向を把握するよう努めている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名で意見を述べられるよう「ご意見ポスト」を設置している。その他、入居者や家族に対しては電話や対面時に困り事等を伺うようにしている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員の意見はフロアリーダーが聴取し、管理者と代表者へ報告している。・毎朝の申し送り、毎月開催しているカンファレンス、各会議の時間を利用し意見や提言を言えるような場を作っている。・会議やミーティングには管理者が出席し、職員の要望や意見を聞く機会を可能な限り設け運営に反映できるように努めている。・管理者、代表者は定期的及び必要時には職員の個別面談を実地している
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・設立母体が医療機関(精神科病院)であり、職員の健康診断、予防接種、メンタルヘルスなど健康を維持できるような対応を実施している。・職員全員に対し毎月勤務希望を聴取する事で、希望日に休暇を取得できリフレッシュできる体制、配慮を行っている。職員一人ひとりの力や勤務状況に配慮し、能力、適正に応じ役割を持ってもらう事で向上心アップに繋がっている。法人全体で「目標チャレンジエントリー」制度を設け、自己研磨に努められるよう支援している
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人全体研修(1/月)、介護保険事業部研修(1/月)、施設内研修(1/月)を計画的に実施している。・オンライン研修に施設内で積極的に受講し、以前より研修に参加しやすい。・参加してみたい研修があれば積極的に参加して頂き、育成に努めている。・職員の勤続年数、介護技術、知識等の能力を把握し個々に必要な外部研修に参加してもらいスキルアップを図っている。・フロアリーダーが中心となり、介護技術の指導を行いエビデンスに基づいたケアが実施できるよう指導、助言を行っている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて同業者との情報交換や交流を持つ事で、意欲向上を図っている。・香川県グループホーム、小規模多機能連絡協議会にて他事業所と意見交換を行い、他施設での取り組みや改善した事を参考にさせて頂き、自施設でのサービス向上を図っている。・香川県グループホーム協議会役員として他事業所から助言を頂きながら連携に努めサービスの質向上目標としている

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている 入居前に本人や家族と面談し、入居に至るまでの経緯について情報収集を行っている、関係機関があれば各機関の職員との情報交換も行っている。不安や困り事、要望などを随時聞き取りしながら安心できる関係作りに努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている 入居に至るまでに本人と家族の思いや不安・要望を傾聴し、相談しやすい環境、信頼関係作りに努めている。また、月1回のお便りにて近況を報告し、写真を添え何かあれば随時電話にて相談している
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ご本人や家族にとっては何が一番必要な支援かを聞き取りなどにより把握し、必要に応じては他職種とも連携を図り、柔軟な姿勢で支援について見極めるようにしている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている 共同生活の場である認識を持ち、入居者様の自宅にてお手伝いさせて頂いているという姿勢を基本に、ご自身の出来る事は出来る限りして頂いている。月に1度、ご自身の力を生かし夕食作りを一緒に行っている。野菜や花の苗植え等をボランティアの方と一緒に、職員と一緒に収穫を楽しんでいる。一緒に協力する中で喜びを分かち合い家族のような関係を築いている。楽しみを持ちながら生活し、ご本人の主体的な力が出せるように支援している
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている コロナの影響により、面会制限はあるものの日頃から連絡をとり、家族との連携強化、共に支えていく関係作りに努めている。3か月ごとのサービス担当者会議は入居者様の精神面や身体面を報告し、ご家族にしか出来ない役割を理解して頂き協力できる関係作りを築けるよう心掛けている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている コロナの影響で外出する機会は減り、自由にならない事もあるが少しずつご近所へ花見に行ったり、ご家族に面会に来て頂いたり協力してもらっている。また、入居者の思い出話を傾聴したりして関係を築いている。本人が希望する関係が途切れぬように電話や手紙を利用し支援に努めている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている 食事やお茶、レクリエーション等、入居者様同士の交流には随時必要に応じて職員が介入するなど、良い関係作りが続くよう努めている。掃除やお盆拭き等、日常生活の中でも入居者様が負担に感じず助け合い支えあって生活できる様に職員が調整役になっている
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている サービス利用が終了しても、すぐに関係を断ち切る事なく近況など尋ね、相談や支援に努めている

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに日々の関わりの中で希望や意向をさりげなく尋ね把握に努めている。意思疎通の困難な入居者や情報が足りない時は、ご家族や関係者が面会に来られた際に情報を得る等して本人の思いや意向を把握できるよう努めている
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者やご家族から、入居するまでの生活や暮らし方を尋ね、情報収集を行い、これまでの暮らし方の把握に努めている
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の一人ひとりの生活リズムを多方面から総合的に把握し、関わりのある家族や職員からも情報をとり、出来ないという事にとらわれず、出来る事を発見していく事に努めている
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者が自分らしく生活できるよう雑談から本人の希望を聞き取り、3か月に1度はモニタリングを行い介護計画を作成している。必要に応じて医師・歯科医・歯科衛生士・栄養士等の意見を反映させ、現状に即した介護計画書の作成に努めている。ご家族とは3か月に1度サービス担当者会議にて話し合い、意見を取り入れるようにしている
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量・水分量・排泄状況を個々にチェック表に記入し、身体的状況及び日々の様子等を記録している。申し送りや個人カルテで情報を共有し、身体の状態に変化があれば、看護師や主治医に相談したり、カンファレンスを行い、必要があれば介護計画の見直しを定期的に行い改善している
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の併設施設でもあり、2名の看護スタッフを配置しており、病院との迅速な連携を取るようにしている。入居者、家族の状況に応じて通院の送迎などを行っており、歯科医の往診もしている。看取りについては、本人・家族の意向に沿って取り組んでおり、入居者の身体変化があると定期的に意向を伺っている

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが5類になり、ユニット交流会や苗植え等、ボランティアの方との交流を少しずつ増やしている。その際、マスク着用し手洗いや一定の空間を保ち、コロナ対策も徹底して行っている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、いつでも相談や受診ができる体制を築き、適切な医療を受けれるよう支援している。主治医の他にも入居前からのかかりつけ医との関係を密に結び、定期的に受診介助を行っている。併設病院への通院は看護師が同行し、他病院の入退院は基本的に家族に付き添って頂くが、家族からの依頼がある場合は職員が行っている。病院へ情報提供書類により、状況把握に努め、緊急時は併設病院へ連絡し対応している
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員2名を配置しており、日勤帯には必ず1名以上確保するようにしている。介護職は夜勤の状態や申し送り、少しの異変も看護職員に伝え、適切な受診に繋げている。看護職員がいない場合は、併設施設や併設病院の看護師の協力を得ている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護師が添え書にて必要な情報を医療機関に提供できるようにしている。病院関係、家族との情報を定期的に行い、安心して治療が出来るようにしている。また、できるだけ早期に退院できるよう医療機関や家族と相談している
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化や終末期に施設でどこまでの支援が可能なのか説明を行い、意向確認書にて本人・家族の意向を伺い、方針を共有するようにしている。状態に変化があればその都度、本人・家族に意向を伺い主治医や併設病院の看護師で話し合い、情報を共有しそれに沿って統一した支援を行っている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、勉強会やカンファレンスを行ったり、研修にも参加し技術を習得するようにしている。マニュアルを作成し、いつでも目につく場所に置き、職員全員に周知徹底している。光風会では、緊急放送を用い、早急の対応を心掛けている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、年4回防災訓練を行っている。その内2回は併設施設と合わせて行っている。施設での訓練では、地域の方に声掛けし参加して頂けるよう計画を立てている。安否確認のアプリを活用し万全の体制で取り組んでいる

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている 入居者様の人格を尊重し、更衣や排泄時等必ず扉を閉め、プライバシーを損ねない声掛けをしている。個人情報に配慮し、プライバシー保護の研修は日々の出来事の具体的な情報を取り入れた内容で行っている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている 入居者様に無理なく声掛けをし、耳を傾け複数の選択肢を提案し、入居者様が自分で決めれる様支援している。食べたい物の希望がある場合、スタッフと一緒に外出し購入して間食時に食べている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している 入居者様の起床時にバイタル測定をし、毎日排泄チェックを行い、その日の体調や様子を見たり、入居者様の希望を聞きながら日々を過ごして頂いている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 毎月1回訪問美容室を利用し、希望の髪型に切っている。男性の入居者様は髭剃りも行っている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている 入居者様の無理のないよう出来る範囲でテーブル拭き、お盆拭き、布巾たたみ、洗濯たたみ等のお手伝いに参加されている。手作りおやつ、手作り夕食等、食べたいメニューの希望を聞いている。手作り夕食では材料の野菜をスタッフが見守りにて安全に切って頂き、食事の楽しさを実感されている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている 入居者様の1日の食事量や水分をチェックし、職員間で情報を共有している。摂取量が少なければ食事形態を考え変更している。水分が低下する場合は各々の好みに合わせた物を提供している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている 毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、清潔保持に努めている。本人や家族の希望で歯科の往診を依頼し、治療に繋げたり口腔ケアについての指導を受けている

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつ使用を減らす為に、排泄チェック表に記録を付けて一人ひとりの排泄パターンを把握しており、それを元に適時声掛けをトイレ誘導する定期誘導も行っている。トイレで排泄を促す事で失敗やおむつの使用を減らし、自立に向けた支援を行っている。夜間は希望により、おむつや尿取りも使用、ポータブルトイレ利用も可能である
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排泄できるよう、オリゴ糖を使用する、牛乳を摂取するなど個々に応じた取り組みをしている。水分補給の声掛けや毎日のラジオ体操、リハビリ体操等の参加を促している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に沿う様に入浴の時間や回数等の支援をしている。入浴の楽しみになる様初夏の菖蒲湯や冬のゆず湯など季節感を大切にしている。また、入居者の体調に合わせたリフト浴やシャワー浴等の支援も行っている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり体調や状況を見て午睡を勧めたり気持ちよく眠れる環境作りをしている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の服薬ファイルを作成し、薬の目的や用法が理解できる様にしており、症状の変化の確認に努めている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や趣味を通じ、個々にあった役割を持ってもらっている。生け花、カラオケ、HDD鑑賞、DVD鑑賞やおやつ等の嗜好品で日々の楽しみや気分転換の支援をしている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はコロナ感染症対策を考慮しながら支援している。花見やあじさい見学など季節の行事で楽しんで出掛けられるよう支援している

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の強い希望にて金銭を所持される方もいるが、基本はご家族様からのお小遣いを預かり事務所で保管している。コロナ禍で買い物や外食等できなかったが、自身の好みによって選択をして頂き、代行にて職員が購入為て少しでも楽しめるよう支援している
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が希望された時にご家族様や友人への電話を取り次ぎ、季節の行事として年賀状を書く等やり取りが途絶えぬようスタッフはその都度、ご家族に説明を行い支援している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にプランターを設置し、季節ごとに入居者の方と花、野菜の苗植えや水やりをし色とりどりの花が咲く事や野菜の収穫を楽しみにしている。金魚やめだかを飼育し、水替えや餌やりをしている。エントランスには行事の写真・作品を展示している。ホールや居室・トイレが隣接している為、臭いがこもらないよう換気をこまめに行っている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自由に自室で過ごせたり、ホールにはフローリングと畳の間があり、テレビを見たりゆっくりとくつろげるスペースにしている。また、廊下にソファを置き、他入居者と一緒に過ごせるようになっている。テレビもDVD・HDDなど入居者が操作され、他入居者と楽しまれている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族やご自身の馴染みのある物・家庭で使用していた家具を持参され使用している方もいる。他の入居者と見たい番組が異なる時や独自に音楽を聴きたい方は、テレビやラジカセを購入し楽しんでいる。本人や家族の希望で居室出入り口に個人名を明記している方がいる。ベッド・クローゼット・タンス・テーブル・椅子は備え付けである。居室には鍵があり希望により施錠も可能である
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとり状態の変化を観察し、車椅子やバギー・歩行器を使用し、活動維持に取り組んでいる。状況に応じて出来ない事は本人の自尊心を傷つけないよう安心・安全に過ごせるよう支援している